

自然災害情報室の取り組み

社会防災研究領域 総合防災情報センター 自然災害情報室

室長：内山庄一郎
室員：田中亜紀子・池田千春・前田佐知子・樋山信子
栗栖和恵・篠崎いずみ・竹口明希

災害の記憶を、未来を守る力に。

「収集」のその先へ —— 災害知の活用モデル試行とネットワークの構築

- ☑【知見付与】 災害記録を、生きた「知恵」に。アーカイブと研究の連携で、資料を読み解く「科学的視点」を付加
- ☑【広域連携】 機関をつなぎ、散逸を防ぐ。相互連携により、組織を超え資料を「守り・支える」体制づくりを推進
- ☐【知の循環】 「収集」と「活用」を循環させる。災害経験の実践知を集約し、命と暮らしを守る「力」を未来へ

▶ 「記録」から「活用」へ —— 科学と体験を融合、防災を「自分事」にする道筋を探る

【知の還流】「災害記録」に科学の視点を付与する

——令和6年能登半島地震・奥能登豪雨特別展示を通じた知見還流の試行

2024年1月の発災直後より計214冊の資料を収集(2025年12月末時点)。本展示では、室員が現地で収集した「ここにしかない一次資料」と、研究員による「科学的解説」を融合。これにより、単なる被害状況の確認にとどまらず、災害発生メカニズムや背景にある地形リスクまでを深く読み解く展示手法を試行しています。

地図上のリスクを現地で体感することで、「ハザードマップの意味」を深く理解し、具体的な避難行動につなげるためのアウトリーチ手法の構築に取り組んでいます。

令和6年能登半島地震・奥能登豪雨
特別展示の様子▶
防災科研YouTubeで紹介中



【地域共創】街を巡り、防災を自分事化する

——地図と足で学ぶ、「防災ロゲイニング」での地域連携

筑波大学主催のイベントに共催し、ハザードマップの監修や、当室所蔵の資料を活用した解説を実施。これらは、机上の「知識」を、実際に歩いて確かめる「体験」へと変換する試みです。



◀監修した防災ロゲイニングマップ
当日の様子はつくば市公式YouTubeで紹介中



▶ 「孤立」から「連携」へ —— 全国をつなぎ、災害知を守り抜く「ハブ」機能を目指す

【連携強化】資料の散逸を防ぐ「ハブ」機能

——災害資料アーカイブ機関ネットワーク

国内アーカイブ機関を相互につなぎ、貴重な災害資料の散逸を防ぎ、未来へ継承する体制を構築しています。

災害資料アーカイブ機関メーリングリストを運用し、機関同士での資料相互提供や資料活用ノウハウ共有を推進。令和7年度は新たに12機関が加入し、計45機関(2025年12月末時点)になりました。

全国の図書館や周辺の関係者が一堂に会する「図書館総合展」でのフォーラム(連携機関との共催)や、日本唯一の「防災教育コレクション」を他機関の所蔵資料と組み合わせた展示企画を展開。

これらの共同企画は、市民の防災力向上だけでなく、機関同士の「顔の見える関係構築」という重要な役割を担っています。

【社会展開】非常時を支える「平時の連携」

——連携イベントによる防災基礎力向上

いざという時に助け合えるのは、平時の信頼関係があつてこそ。令和7年度は年間5件の連携イベントを実施しました。



◀図書館総合展 2025年度
フォーラム
「忘れない」を仕事にする一図書館・学校・地域で活かす災害アーカイブ

図書館総合展Webサイトで
アーカイブ公開中

